盛岡青松支援学校

研究テーマ
「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた自立活動の取り組み」

１　全体研究
（１）研究テーマ設定の理由
　Ｃｏ－ＭａＭｅ等のアセスメントツールの活用をとおして、児童・生徒の実態やニーズ等を適切にとらえ、指導・支援を行うことで主体的、対話的で深い学びを実現できるのではないかと仮説を立てた。
　各学部でサブテーマを設けて１年間の事例研究を行う。さらに、成果と課題を全職員で学び合うことで、児童・生徒の学びについて考える機会とする。
（２）各グループについて
①小学部
「視覚的ツールを使って自分の気持ちを表現することを目指して」
　対象児童について、学部職員でアセスメントした結果、具体的課題を「気持ちの表現」に絞り、支援方法を検討した。今の気持ちを色で表すワークシートを活用し、取り組みの様子を記録した。対象児童の変化を職員間で共有したり、ケース検討会で助言をいただいたりしながら指導・支援の方向性を検討し、成果と課題についてまとめた。
②中学部
「生徒一人一人が自己理解を深め、適切に表現するための指導・支援」
　１学年と３学年の２名の対象生徒を抽出し、Ｃｏ－ＭａＭｅのアセスメントを用いて、「感情のコントロール」や「自信」などの具体的課題に絞った。１学年では、授業の取り組みの様子を記録したり、自立活動で感覚面へのアプローチや感情の理解に関する指導・支援を検討したりして実践した。３学年では、自立活動を通じて、ストレス測定計のワークシートをもとにストレスチェックをしたり、感情の分化について体験談を話し合ったりした。
③高等部
「授業への参加の姿勢の改善～立ち歩きを減らすために～」
　対象生徒を１名抽出し、Ｃｏ－ＭａＭｅのアセスメントシートを活用して生徒の実態把握を行い、整城教育大学教職大学院教授　植木田潤先生から、学校での授業の指導・支援について的確なアドバイスをいただくことができた。
（３）グループ研究会
　年間 10 回を基本に、各学部の推進状況により回数を調整し計画・実施した。

（４）ケース検討会
　宮城教育大学教職大学院　植木田潤教授、岩手大学　鈴木恵太准教授を助言者としてお招きし、各学部で行っている実践について報告し、児童生徒に対する指導・支援について具体的なアドバイスをいただいた。
（５）全体研究会（年２回）
①７月：研究推進のついての共通理解
②２月：今年度の研究実践についての共通理解

２　講演会
第 62 回岩手県病弱・虚弱教育研究大会
ならびに岩手県高等学校教育研究大会
講演①:「通常の学級における発達障がい児への支援」
講師：山形大学教職大学院
教授　三浦　光哉　氏
講演②:「放課後等デイサービス・児童発達支援事業が考える学校の役割と期待について」
講師：株式会社ソルド
代表取締役　栃内　恵子　氏
期日：令和５年７月 31 日（月）
参加者：76 名

３　研修会
（１）Ｃｏ－ＭａＭｅ研修（全病連心身症等教育研究推進委員会オンライン研修会）
（２）校内研修会（Ｃｏ－ＭａＭｅの実践に関わる学習会）
講師：国立特別支援教育総合研究所
土屋　忠之　氏